

Canon R50 4つの特徴

POINT

1

手軽に使える、気軽に持ち歩ける
小型・軽量ボディ



バッテリーパックとメモリーカードを含めてもわずか375gという軽さ。上位機種から継承した高度な撮影機能を、コンパクトなボディに凝縮し、いつでも気軽に持ち歩くことができる。毎日の何気ないシーン、ふとした瞬間にカメラを向けてシャッターを切る。そんな自由な撮影スタイルが実現する。



撮影モード シャッター優先AE 絞り値 F7.1 シャッタースピード 1/30秒 露出補正 ± 0
ISO感度 100 ホワイトバランス オート(雰囲気優先) ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM 焦点距離 113mm(180.8mm相当)

POINT

2

被写体をとらえて追いかける
デュアルピクセルCMOS AF II



撮影モード プログラムAE 絞り値 F8 シャッタースピード 1/200秒 露出補正 ± 0
ISO感度 100 ホワイトバランス オート(雰囲気優先) ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM 焦点距離 20mm(32mm相当)



構図内に入った被写体を高精度に検出し、センサー面の全域を使ってトラッキング。デュアルピクセルCMOS AF IIは、従来よりAFエリアが拡大・細分化したことにより、被写体をとらえて追いかける機能も進化した。撮りたい対象にカメラを向けると一瞬でフォーカスし、被写体の動きに追従しながらピントを合わせ続ける。

撮影モード 絞り優先AE 絞り値 F2
シャッタースピード 1/100秒
露出補正 ± 0 ISO感度 5000
ホワイトバランス オート(雰囲気優先)
ピクチャースタイル ポートレート
使用レンズ RF50mm F1.8 STM
焦点距離 50mm(80mm相当)

POINT
3

被写体の動きを 逃さず切り取る連続撮影

電子先幕時で最高約12コマ/秒、電子シャッター時で最高約15コマ/秒の連続撮影が可能。AF性能とのコンビネーションにより、動きの激しいスポーツシーンもしっかりと捉えることができる。



撮影モード シャッター優先AE
絞り値 F7.1 シャッタースピード 1/2000秒
露出補正 ±0 ISO感度 500
ホワイトバランス オート(雰囲気優先)
ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM
焦点距離 171mm(273.6mm相当)



撮影モード 絞り優先AE 絞り値 F8 シャッタースピード 1/100秒 露出補正 -2/3
ISO感度 100 ホワイトバランス オート(雰囲気優先) ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM 焦点距離 39mm(62mm相当)

POINT
4

大型センサーでシーンの美しさを 余すところなく記録する

最大約2420万画素、APS-CサイズのCMOSセンサーを搭載。被写体の細部まで写し取ることができ、肌の質感やニュアンス、色の微妙なグラデーションまで美しく再現する。



撮影モード 絞り優先AE
絞り値 F4.5
シャッタースピード 1/400秒
露出補正 ±0
ISO感度 100
ホワイトバランス オート
ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S18-45mm
F4.5-6.3 IS STM
焦点距離 18mm(29mm相当)

Chapter 1	R50の基本操作をマスターしよう	13
Section 01	R50の各部名称を確認しよう	14
	正面・上面の名称	
	背面・側面・底面の名称	
Section 02	撮影前の準備をしよう	16
	バッテリーの充電と装填を行う	
	レンズの取り付け/取り外しを行う	
	日付/時刻/エリアを設定する	
	メモリーカードを挿入して初期化する	
	記録画質を設定する	
Section 03	ボタンやダイヤルの基本操作を覚えよう	20
	メニュー画面の操作を覚える	
	撮影画面の操作を覚える	
	クイック設定を覚える	
	クイック設定の項目を編集する	
Section 04	ファインダーの操作を覚えよう	24
	視度調整を行う	
	画面の表示先を設定する	
	ファインダーの表示内容を確認する	
	ファインダーの表示内容を設定する	
	OVFビューアシストを設定する	
Section 05	モニターの操作を覚えよう	28
	モニターの表示内容を覚える	
	バリエーション液晶モニターを活用する	
Section 06	画像を再生/削除しよう	30
	画像を再生して確認する	
	画像を削除する	
Section 07	R50の撮影モードを知ろう	32
	撮影モードを設定する	
	R50の撮影モード	
Section 08	シーンインテリジェントオートで撮影しよう	34
	シーンインテリジェントオートで撮影する	
	AFアシストを使う	
Section 09	ブラスムービーオートで撮影しよう	36
	ブラスムービーオートで撮影する	
Section 10	スペシャルシーンモードで撮影しよう	38
	スペシャルシーンモードで撮影する	
	スペシャルシーンモードの種類を知る	

Section 11	クリエイティブフィルターモードで撮影しよう	40
	クリエイティブフィルターモードで撮影する	
	クリエイティブフィルターの種類を知る	
Column 01	カメラをメンテナンスしよう	42

Chapter 2	ピント合わせの機能を使いこなそう	43
Section 01	ピントを理解しよう	44
	主役にピントを合わせる	
	被写界深度を知る	
Section 02	フォーカスモードを理解しよう	46
	フォーカスモードを設定する	
	AFで撮影する	
	MFで撮影する	
Section 03	AF動作の種類を知ろう	48
	AF動作を設定する	
	ワンショットAFで撮影する	
	サーボAFで撮影する	
Section 04	AFエリアの種類を知ろう	50
	AFエリアを設定する	
	R50で設定できるAFエリア	
Section 05	AFフレームを動かしてピントを合わせよう	52
	AFフレームを動かす	
	タッチ&ドラッグAFを利用する	
Section 06	AF動作とAFエリアを組み合わせよう	54
	ワンショットAFとスポット1点AF	
	サーボAFと領域拡大AF	
	サーボAFと全域AF	
Section 07	AF機能を微調整しよう	56
	サーボAF中の全域トラッキング	
	検出する被写体を設定する	
Section 08	瞳検出を設定しよう	58
	瞳検出を設定する	
	瞳検出で撮影する	
Section 09	MFで撮影しよう	60
	MFでピントを合わせる	
	MFで撮影する	
Column 02	ピントは面で考えよう	62

Chapter **3** 露出にこだわって撮影しよう 63

Section01	露出を理解しよう 64
	露出の仕組み
	絞りと露出の関係
	シャッタースピードと露出の関係
	絞りとシャッタースピードの関係
	標準露出と適正露出の違い
Section02	プログラムAEで撮影しよう 68
	プログラムAEに設定する
	プログラムAEで撮影する
Section03	絞り優先AEで撮影しよう 70
	絞り優先AEに設定する
	絞り優先AEで撮影する
Section04	シャッター優先AEで撮影しよう 72
	シャッター優先AEに設定する
	シャッター優先AEで撮影する
Section05	露出補正で明るさを調整しよう 74
	露出補正を設定する
	露出補正で明るさを調整する
Section06	測光モードを使い分けよう 76
	測光モードを設定する
Section07	ISO感度を理解しよう 78
	ISO感度を設定する
	ISO感度を高くして撮影する
Section08	ノイズ低減機能を使おう 80
	高感度撮影時のノイズ低減を設定する
	長秒時露光のノイズ低減を設定する
Section09	内蔵ストロボを使おう 82
	内蔵ストロボを使用する
	内蔵ストロボを使って撮影する
Section10	マニュアルで撮影しよう 84
	マニュアルに設定する
	マニュアルで撮影する
Column03	バルブで撮影しよう 86

Chapter **4** R50の便利な機能を使いこなそう 87

Section01	ピクチャースタイルを楽しもう 88
	ピクチャースタイルで撮影する
	ピクチャースタイルの詳細設定を行う
Section02	ホワイトバランスで色合いを変化させよう 92
	ホワイトバランスとは
	ホワイトバランスを設定する
	ホワイトバランスで写真の印象を変える
Section03	高速連続撮影で動く被写体を撮影しよう 96
	高速連続撮影を設定する
	高速連続撮影を使って撮影する
Section04	HDRを使おう 98
	HDRを設定する
	「画像位置自動調整」を活用する
Section05	オートライティングオプティマイザを使おう 100
	オートライティングオプティマイザを設定する
	オートライティングオプティマイザで撮影する
Section06	動画を撮影しよう 102
	動画を設定する
	動画記録サイズを設定する
Column04	タイムラプス動画を撮影しよう 104

Chapter **5** 交換レンズを使いこなそう 105

Section01	交換レンズの基本を知ろう 106
	レンズの構成と各部名称
	レンズ名の読み方を知る
	レンズの種類と特徴を知る
	焦点距離によるレンズの種類を知る
	ズームレンズと単焦点レンズの特徴を知る
Section02	焦点距離と画角の関係を知ろう 110
	焦点距離と画角の関係
	焦点距離による画角の違い
	焦点距離による遠近感の違い
	35mm判換算を理解する
Section03	標準ズームレンズを使おう 114
	RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM

	RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM 視覚変化の大きさを生かす	
Section04	広角ズームレンズを使おう 116	
	RF-S10-18mm F4.5-6.3 IS STM なるべく要素を切り詰めるのがコツ 寄りすぎと思うくらい寄る	
Section05	望遠ズームレンズを使おう 118	
	RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM 人物やペットの撮影でボケを生かす 被写体のボリュームやスケールを表現する	
Section06	単焦点レンズを使おう 120	
	RF50mm F1.8 STM RF16mm F2.8 STM RF35mm F1.8 MACRO IS STM RF28mm F2.8 STM	

Chapter 6 R50シーン別撮影テクニック 123

Section01	自然の風景を撮影しよう 124
	登山こそ小さくてよく写るカメラを いざという時に頼れるキットレンズ “写真は引き算”が構図の鉄則 マイナス補正で光を際立たせる 高速シャッターで波しぶきを止める 清らかな水の流れは低速シャッターで
Section02	身近な風景を撮影しよう 128
	目を“望遠”にして被写体を探す 目線の高低が写真に変化を与える
Section03	夜景写真を撮影しよう 130
	マジックアワーが狙い時 高感度や手ブレ補正を生かして手持ちで撮る
Section04	ポートレートを撮影しよう 132
	ローアングルでスタイルをカッコよく写す 人物が引き立つように背景を組み立てる 縦位置・横位置を意識してフレーミングする
Section05	元気な子どもを撮影しよう 136
	高速シャッターで被写体ブレを防ぐ ローアングルで表情や背景をくっきりと

Section06	スポーツを撮影しよう 138
	高速シャッターで力強さを表現する R50の高いAF性能を信頼する
Section07	ペットを撮影しよう 140
	背景が飛ぶくらい逆光が存在感を強める 画面に余白を作りストーリー性を生む
Section08	花を撮影しよう 142
	アングルを工夫して“小さな世界”を作る 望遠レンズで一部を引き寄せる
Section09	テーブルフォトを撮影しよう 144
	露出補正とホワイトバランスで空気感を作る レフ板で暗部にも光をやさしく回す
Section10	料理を撮影しよう 146
	低いアングルで立体感を出す 明るめの露出補正がおいしさの基本
Column05	マウントアダプターを装着してEFマウントレンズを使おう 148

Chapter 7 R50とスマホやパソコンを連携しよう 149

Section01	カメラとスマートフォンを接続しよう 150
	カメラと端末を接続する
Section02	画像をスマートフォンに転送しよう 152
	アプリを使って受信する カメラから画像を送信する
Section03	スマートフォンをリモコンとして使おう 154
	リモートライブビュー撮影でリモート撮影をする 撮影画面の表示内容
Section04	カメラとスマートフォンの情報を同期しよう 156
	日付と時刻を送信する 位置情報を送信する
Section05	撮影した画像をクラウドにアップロードしよう 158
	アプリをダウンロードしてカメラと接続する 画像をクラウドにアップロードする アップロードした画像をストレージに移す
Section06	R50をウェブカメラとして使おう 162
	カメラの設定を整える R50をウェブカメラとして使用する
Column06	電子シャッターに設定して静音撮影をしよう 164



R50の基本操作を マスターしよう

- Section 01 ▶ R50の各部名称を確認しよう
- Section 02 ▶ 撮影前の準備をしよう
- Section 03 ▶ ボタンやダイヤルの基本操作を覚えよう
- Section 04 ▶ ファインダーの操作を覚えよう
- Section 05 ▶ モニターの操作を覚えよう
- Section 06 ▶ 画像を再生/削除しよう
- Section 07 ▶ R50の撮影モードを知ろう
- Section 08 ▶ シーンインテリジェントオートで撮影しよう
- Section 09 ▶ プラスムービーオートで撮影しよう
- Section 10 ▶ スペシャルシーンモードで撮影しよう
- Section 11 ▶ クリエイティブフィルターモードで撮影しよう
- Column 01 ▶ カメラをメンテナンスしよう

Chapter 8 R50を使いやすくカスタマイズしよう 165

- Section 01 ボタンやリングをカスタマイズしよう 166
ボタンに機能を割り当てる
コントロールリングに機能を割り当てる
カスタマイズを初期化する
- Section 02 マイメニューを設定しよう 168
マイメニューを登録する
マイメニューを削除する
- Section 03 水準器とグリッドを表示しよう 170
水準器を表示する
グリッドを表示する
- Section 04 タッチ操作や電子音を設定しよう 172
タッチ操作を制御する
電子音を消す
- Section 05 ファームウェアを更新しよう 174
ファームウェアをダウンロードする
カメラ操作でファームウェアをアップデートする
- R50全メニュー紹介 176
- 索引 190

ご注意 ※ご購入・ご利用の前に必ずお読み下さい

- 本書はCanon製デジタル一眼レフカメラ「EOS R50」の操作方法を解説したものです。掲載している画面などは初期状態のもので、情報は2024年6月現在のもので、一部の表示内容が変更される場合があります。あらかじめご了承ください。
- 本書に記載された内容は、情報の提供のみを目的としています。したがって、本書を用いた運用は、必ずお客様自身の責任と判断によって行ってください。これらの情報の運用について、技術評論社および筆者はいかなる責任も負いません。

以上の注意点をご了承いただいた上で、本書をご利用願います。これらの注意事項をお読みいただくずにお問い合わせいただいても、技術評論社および筆者は対処しかねます。あらかじめ、ご承知おきください。

■ CanonおよびEOS R50、その他、キヤノン製品の名称、サービス名称等は、商標または登録商標です。その他製品等の名称は、一般に各社の商標または登録商標です。

01 R50の各部名称を確認しよう

Keyword ボタン/ダイヤル/各部名称

1

カメラの性能を最大限に引き出すためには、**カメラのどこにどんなボタンがあり、それぞれどんな機能を有しているかを正確に把握することが大切だ。**カメラを見なくても正確に操作し、シャッターチャンスに対応できるようになる。

1 正面・上面の名称



1 RFレンズ取り付け指標	7 動画撮影ボタン
2 撮像素子	8 (ON/OFF) 電源スイッチ
3 レンズロック解除ボタン	9 モードダイヤル
4 シャッターボタン	10 マルチアクセサリシュー
5 (ISO) ISO感度設定ボタン	11 (AF) 撮像面マーク
6 (太陽) 電子ダイヤル	

2 背面・側面・底面の名称



1 ファインダー接眼部	10 (再生) 再生ボタン
2 モニター	11 (設定) クイック設定/設定ボタン
3 (AE/Q) AEロック、FEロックボタン/拡大ボタン	12 (AF/MF) 左/オートフォーカス、マニュアルフォーカスボタン
4 (AF/Q) AFフレーム選択/インデックス/縮小ボタン	13 (MIC) 外部マイク入力端子
5 (INFO) インフォボタン	14 (USB-C) デジタル端子
6 (上/露出補正ボタン)	15 (HDMI OUT) HDMIマイクロ出力端子
7 (右/セルフタイマー/ドライブモード選択ボタン)	16 カード/バッテリー収納部ふたロック
8 (下/消去ボタン)	17 カード/バッテリー収納部ふた
9 (MENU) メニューボタン	18 視度調整レバー
	19 三脚ねじ穴

まとめ

● ボタンやダイヤルの位置を覚えて、カメラを見なくても正確に操作できるようになる

1

R50の基本操作をマスターしよう

02 撮影前の準備をしよう

Keyword バッテリー/レンズ/メモリーカード

1

カメラを購入したら、いくつかの準備を行おう。まずは**バッテリーを充電**し、**レンズを取り付け**、電源を入れる。**日付と時刻**を設定したら、**メモリーカードを初期化**し、**画質と画像サイズ**を設定しよう。

1 バッテリーの充電と装填を行う

カメラを購入し梱包から取り出したら、**まずはバッテリーを充電**しよう。容量いっぱいまで充電してから使うのが基本だ。電池の残量は、カメラのモニターやファインダーで確認できる。

■ バッテリーを充電する



付属のバッテリーチャージャーにバッテリーを差し込む**1**。



チャージャーをコンセントに差し込んで充電する**2**。充電中は「CHARGE」のランプがオレンジ色に光り、充電が完了すると「FULL」のランプが緑色に光る。

■ バッテリーの取り付け/取り外し



カード/バッテリー収納部のふたを開け、ツメを避けながら**1**、バッテリーを奥まで差し込む**2**。



バッテリーを取り外す時は、ツメをずらすと**3**、バッテリーが飛び出してくる。

2 レンズの取り付け/取り外しを行う

レンズの取り付け/取り外しは、**電源をオフにして行うのが基本**だ。電源を入れた状態だと、撮像素子に電気が通り、ゴミが付着しやすくなるためだ。

■ レンズを取り付ける



カメラとレンズのキャップを外し、RFレンズ取り付け指標を合わせながら**1**、レンズをはめ込む。



「カチッ」と音がするまでレンズを回す**2**。これでレンズの装填は完了だ。

■ レンズを取り外す



レンズロック解除ボタンを押しながら**1**、装填とは反対方向にレンズを回す**2**。



RFレンズ取り付け指標が合うところまで回し**3**、レンズを取り外す。取り外した後は、カメラとレンズにキャップを取り付ける。

3 日付/時刻/エリアを設定する

購入直後やしばらく電池を抜いていた時は、日付や時刻をきちんと合わせよう。日時は画像に情報として付与され、撮影後に整理をする際に役立つ。狂った設定のままでは混乱してしまうので、正確な情報を設定しよう。なお、アプリと端末を使えばスマートフォンから情報を取得することもできる(→P.156)。



機能設定タブから「日付/時刻/エリア」を選択し、設定する。

1

R50の基本操作をマスターしよう

01 ピントを理解しよう

Keyword ピント/被写界深度

人は写真を見た時、ピントが合っている被写体を主役としてとらえる。逆に言えば、**もっとも見せたい被写体にピントを合わせることで、主役として目立たせることができる**。正確にピントを合わせるためにも、まずはピントの基本を知っておこう。

1 主役にピントを合わせる

ピントを正確に合わせることは、写真撮影の基本だ。もっとも見せたい被写体にピントを合わせて、主役として見せる。**ピントは撮影現場でしか調整できない**ので、慎重に合わせよう。

主役にピントが合っている



手前の花にピントが合っている写真。花が写真の主役だとわかる。

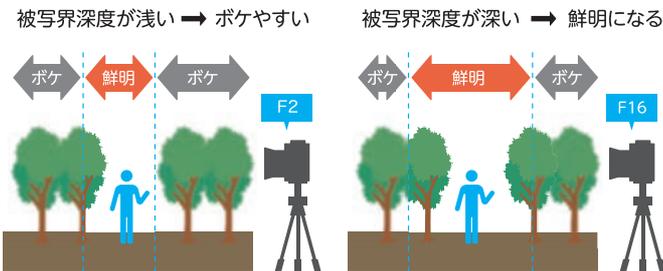
ピントがずれている



花からピントがずれて、奥の草に合ってしまった。主役のはずの花がボケて、背景の草がシャープに写るといっちはぐな写真になってしまった。

2 被写界深度を知る

ピントをある一点に合わせてと、そこから前後に離れるほどボケていく。**被写界深度**とは、**ボケずにシャープに見える範囲**のことで、レンズの絞りでコントロールすることができる。ボケが大きな写真は被写界深度が浅い、ということになる。



絞り値を小さくすると被写界深度が浅くなり、ピントが合う範囲が狭くなる(ボケが大きくなる)。絞り値を大きくすると被写界深度が深くなり、ピントが合う範囲が広くなる(シャープに写る範囲が広がる)。

F2



F16



左の写真はF2で撮影し、背景がボケている。右の写真はF16で撮影しており、F2と比較すると背景が鮮明に写っている。

まとめ

- 主役にしたい被写体にピントを合わせる
- 見る人はピントが合っている被写体を主役だと認識する
- ピントが合っている範囲のことを被写界深度という

フォーカスモードを 理解しよう

Keyword フォーカスモード/AF/MF

ピント合わせの方法を「**フォーカスモード**」と呼び、カメラ任せの「**オートフォーカス (AF)**」と、撮影者が自ら合わせる「**マニュアルフォーカス (MF)**」の大きく2種類に分けられる。それぞれの特徴を踏まえて使い分けよう。

1 フォーカスモードを設定する

R50のフォーカスモードは、◀ボタンで切り替える。レンズにフォーカスモードスイッチがある場合は、**レンズのスイッチが優先され、カメラのスイッチは機能しなくなる。**



◀ボタンを押してフォーカスモードの設定画面を開き①、任意のモードに合わせる②。



レンズにフォーカスモードスイッチがある場合は、レンズのスイッチで任意のモードを選択する③。



AFの場合、シャッターボタンを半押しすると、AFフレームがある場所にピントが合う④。



MFの場合、レンズについているピントリングを回してピントを合わせる⑤。

2 AFで撮影する

主役がはっきりしていてAFでもピントを合わせられる場合や、動く被写体を撮影する場合などは、AFが向いている。シャッターボタンを半押ししてAFを作動させ、ピントが合ったら全押しして撮影する。



ランニングバイクに乗る子どもを撮影した。いつ、どのように動いても未知数だったので、AFですばやくピントを合わせた。

3 MFで撮影する

意図したピント合わせがAFでは難しかったり、ピント位置をあてずらしたりする場合は、MFで撮影する。ピントリングを回す操作に時間がかかるため、じっくりと撮影できるシーンで使用するとよいだろう。



表面がのっぺりしている被写体や、反対に凹凸が複雑な被写体の場合、AFは迷いやすい。そういった場合はMFを使ってピントを合わせよう。

まとめ

- ピント合わせにはAFとMFの2種類がある
- AFは主役がはっきりしているシーンに向いている
- MFはAFでピントを合わせにくい場面で使用する

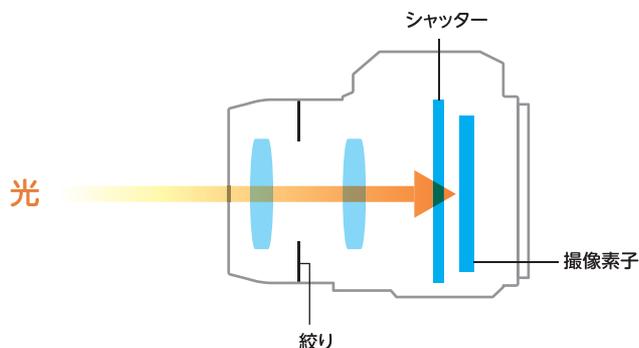
01 露出を理解しよう

Keyword 露出/絞り/シャッタースピード

デジタルカメラは、レンズから入った光を電気信号に変換し、画像として記録する機器だ。取り込む光の量を「**露出**」と呼び、露出によって写真の明るさが決まる。露出を決めるのは、主に「**絞り**」と「**シャッタースピード**」だ。

1 露出の仕組み

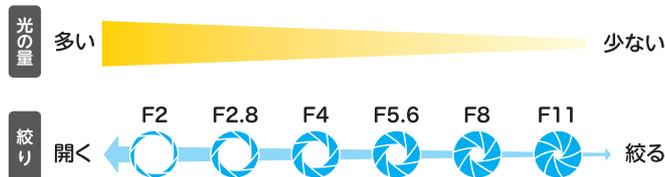
デジタルカメラは、レンズから光を取り込み撮像素子に当てて、光を電気信号に変換することで、画像を記録する。取り込む光の量を「**露出**」と呼び、露出によって写真の明るさや表現が決まる。露出を決めるのは、主に「**絞り**」と「**シャッタースピード**」だ。このふたつを撮影者が操作することで、写真の明るさや表現が決まる。



ミラーレス一眼の仕組みをかたんに表したのが上記のイラストだ。レンズから光を取り込み、絞りとシャッターを通して撮像素子に光が当たり、画像として記録される。この絞りとシャッタースピードを操作することで、写真の明るさや表現が決まる。

2 絞りと露出の関係

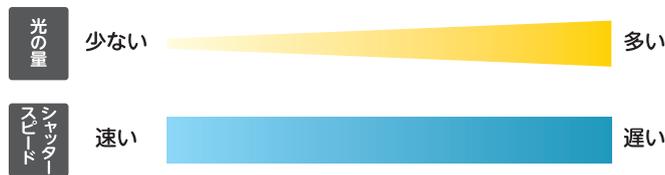
絞りとは、**レンズから光を取り込む穴のこと**だ。絞りは「F2.8」といった数値で表現され、数値が小さいほど穴が大きくなり、数値が大きいほど穴が小さくなる。この数値のことを「F値」「絞り値」と呼ぶ。F2のように、穴が大きくなっている状態を「絞りを開く」と表現し、F16のように穴が小さくなっている状態を「絞りを絞る」と表現する。撮影者は穴の大きさを調整することで、光の量を調節する。



絞りと露出の関係を示したのが上記のイラストだ。絞り値が小さいほど穴が大きくなり、光の量は多くなる。また、絞りは写真のボケ表現(→P.45)にも影響する。

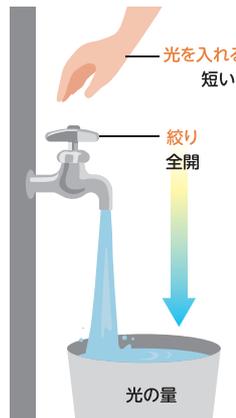
3 シャッタースピードと露出の関係

シャッタースピードとは、**シャッターが開いている時間のこと**だ。「1/250秒」と表示され、数値が小さいほど開いている時間が短く、数値が大きいほど開いている時間が長い。1/4秒、1秒などの長いシャッタースピードを「低速シャッター」と呼び、1/1000秒などの短いシャッタースピードを「高速シャッター」と呼ぶ。撮影者はシャッタースピードの長短を設定することで光の量を調節する。



シャッタースピードと露出の関係を示したのが上記のイラストだ。シャッタースピードが長いほど光の量は多くなる。また、シャッタースピードは写真のブレ(→P.72)にも影響する。

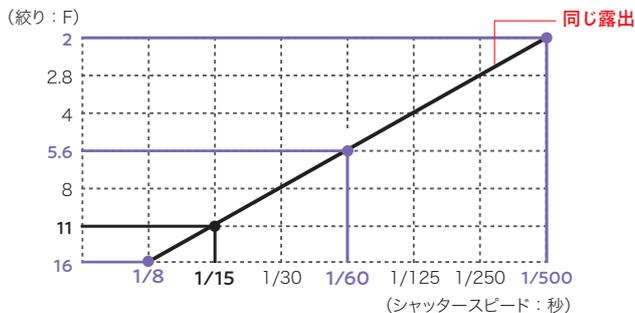
4 絞りとシャッタースピードの関係



露出は、**絞りとシャッタースピードの組み合わせ**によって決まる。この関係は蛇口とコップに例えられることが多い。蛇口を大きく開けば (F1.8など絞り値を小さくすれば)、多くの水が出る(多くの光を取り込める)ので、短い時間でコップが満杯になる(速いシャッタースピードで露出が十分になる)、といった具合だ。

■ 絞りとシャッタースピードの組み合わせ

同じ露出を得られるだけの絞りとシャッタースピードは、一通りとは限らない。例えば同じ環境下では、**F11と1/15秒**と**F5.6と1/60秒**は、**同じ明るさを得ることができる**。つまり、同じ露出になる。ただし、被写界深度によるボケの大きさや、シャッタースピードによるブレなどの表現は変わる。



F16 1/8秒



F5.6 1/60秒



F2 1/500秒



5 標準露出と適正露出の違い

標準露出とは、カメラが判断する平均的な明るさのことだ。デジタルカメラは、マニュアル(→P.84)以外のモードでは基本的に**標準露出で撮影**するようにプログラムされている。露出は、**ヒストグラム**(→P.26)を表示することで客観的に確認することができる。



再生画面でヒストグラムを表示する(→P.26)。グラフが右に寄っているほど明るい写真、左に寄っているほど暗い写真、ということになる。

■ 標準露出と適正露出

カメラが導き出す標準露出は、被写体の反射率に左右される。例えば雪のように反射率が高い被写体は、見た目より暗くなりやすい。それに対し、肉眼で見た明るさに近く、撮影者が表現したい明るさを**適正露出**という。

F9.0、1/320秒で撮影



標準露出のF9.0、1/320秒で撮影。ヒストグラムは左に集まり、白飛びも抑えられているが、全体的に暗くしあがった印象がある。

F8.0、1/200秒、露出補正+1で撮影



F8.0、1/200秒に設定し、露出補正も+1で撮影。ヒストグラムの一部が右に振り切り、雪の部分が白飛びを起こしているが、撮影者のイメージはこちらに近い。

まとめ

- 露出とは、カメラに入る光の量のこと
- デジタルカメラは光を取り込み画像を記録する
- 露出は、絞りとシャッタースピードの組み合わせで決まる

Section

01 ピクチャースタイルを楽しもう

Keyword ピクチャースタイル

ピクチャースタイルとは、**画像の仕上がりを変える設定**のことだ。モードごとにシャープネス、コントラスト、色合いなどが設定されており、撮影シーンによって使い分けができる。各モードの特徴を覚えて、適切に使用しよう。

1 ピクチャースタイルで撮影する

ピクチャースタイルは11種類あるが、基本的に「**スタンダード**」に設定しておけば、あらゆる撮影シーンに対応できる。また「オート」に設定しておけば、カメラが露出や色合いを判断して自動でモードを適用してくれる。



クイック設定ボタンを押してクイック設定を表示し、ピクチャースタイルを選択する①。

十字キーの◀▶で任意のモードに設定する②。

インフォボタンを押すと、さらに詳細な設定ができる③。



オート

撮影シーンに応じて、色合いが自動調整される。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になる。



スタンダード

鮮やかでくっきりした写真になる。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できる。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になる。設定内容と効果の「色あい」を変えると、肌色を調整できる。



風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になる。



ディテール重視

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適している。やや鮮やかな写真になる。



4

R50の便利な機能を使いこなそう

4

R50の便利な機能を使いこなそう

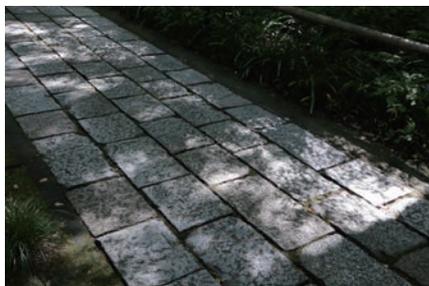


ニュートラル

パソコンでの画像処理に適した設定。自然な色合いで、メリハリの少ない控えめな写真になる。

忠実設定

パソコンでの画像処理に適した設定。太陽光下で撮影した写真が、肉眼で見た時の色とほぼ同じになるように色調整される。メリハリの少ない控えめな写真になる。



モノクロ

白黒写真になる。

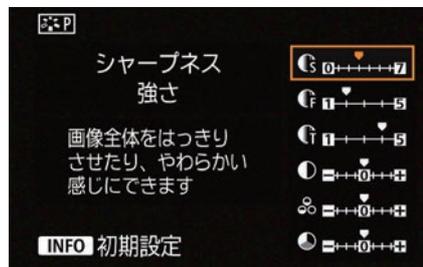
ユーザー設定1~3

ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みに合わせて調整することができる。登録されていない時は、「オート」の初期設定と同じ特性で撮影される。



2 ピクチャースタイルの詳細設定を行う

ピクチャースタイルは、**詳細設定を行うことでより自分好みの表現にすることができる**。設定できる項目は、「シャープネス(強さ)」「シャープネス(細かさ)」「シャープネス(しきい値)」「コントラスト」「色の濃さ」「色あい」の6項目だ。モノクロは「フィルター効果」「調色」を設定する。



P.88の③の操作で項目を選択し、◀▶ボタンで設定する。インフォボタンを押すと初期設定に戻る。



「風景」をベースにコントラストを1段階強めた。一方で、色の濃さは2段階下げて、乾いた空気感を表現した。

まとめ

- ピクチャースタイルは画像の仕上がりを変える機能
- 基本的には「スタンダード」に設定しておけばOK
- R50のピクチャースタイルは11種類ある

01 交換レンズの基本を知ろう

Keyword ズームレンズ/単焦点レンズ/広角レンズ/標準レンズ/望遠レンズ

R50をはじめ、ミラーレス一眼カメラは**レンズを使い分けることで撮影表現を広げることができる**。レンズの基本的な構成や、レンズ名から読み取れる情報に大きな違いはない。まずは交換レンズの基礎知識を身に付けよう。

1 レンズの構成と各部名称

レンズは種類によって形状が異なるが、基本的な構成は同じだ。**まずはレンズ構成と各部名称を覚えて、正しく扱えるようになる**。今回はキットレンズである「RF-S55-210mm F5-7.1 IS STM」を例に構成を解説する。

フィルター取り付け
ねじ部

フィルター類を取り付けるネジ接合部。

ズームリング
焦点距離を変えるリング。単焦点レンズには搭載されていない。



フォーカス/
コントロールリング
MF時にピント位置を調整するリング。任意の機能を割り当てることができる。

ズーム指標
現在の焦点距離を表す指標。ズームリングを回して数値を変更する。

接点

カメラボディとレンズをつなぐ電気接合部。

2 レンズ名の読み方を知る

レンズにはそれぞれ固有の名前が付けられており、**レンズ名がそのままスペックを示している**。つまり、レンズ名の読み方を覚えればレンズのスペックがわかり、どんな画角でどれくらいのボケを作れるのかなど、おおよその仕上がりをイメージできる。

RF
EOS Rシリーズ対応のRFレンズであることを示している。

F4.5-6.3
開放絞り値が広角端でF4.5、望遠端でF6.3であることを示している。

IS
手ブレ補正機構搭載のレンズであることを示している。



3 レンズの種類と特徴を知る

レンズを説明する際は、焦点距離をベースにしたカテゴリーで呼ぶことが多い。まず画角(写る範囲)でおおまかに**広角・標準・望遠**の3種類に分けられる。さらに焦点距離が可変する**ズームレンズ**と、固定の**単焦点レンズ**に分けられる。これらを組み合わせ「広角ズーム」「望遠単焦点」といった呼び方をされる。

■ 焦点距離による区別

広角レンズ	35mm判換算で35mm以下の焦点距離を持つレンズ
標準レンズ	35mm判換算で50mm前後の焦点距離を持つレンズ
望遠レンズ	35mm判換算で70mm以上の焦点距離を持つレンズ

■ ズーム機能による区別

ズームレンズ	ズーム機能を持ち、複数の焦点距離で撮影できるレンズ
単焦点レンズ	ズーム機能がなく、単一の焦点距離のみで撮影するレンズ

4 焦点距離によるレンズの種類を知る

レンズを交換する最大のメリットは、焦点距離を変えて、**写真に写る範囲(=画角)を変えられること**だ。風景を広く写したり、特定の被写体にクローズアップしたりできる。さらに焦点距離で写真の遠近感も変えることができる(→P.112)。



広角レンズ

焦点距離が短く、広い範囲を写すことができる。建物の全体を写す時や、風景を広く撮る時などに向いている。また、前景と背景の遠近感を強調することもできる。



標準レンズ

35mm判換算で50mm前後の焦点距離を持ち、人間の視野角に近い範囲を写すことができる。人物ポートレートやスナップなどに向いている。



望遠レンズ

焦点距離が長く、遠くにある被写体を大きく写すことができる。特定の被写体にクローズアップして写すことが多く、ボケや圧縮効果を使った表現が特徴だ。

5 ズームレンズと単焦点レンズの特徴を知る

焦点距離を可変できるズームレンズと固定された単焦点レンズは、**それぞれメリット・デメリットがあり、使い方も異なる**。R50のレンズキットには、標準ズームレンズのみのものと、標準・望遠2本のズームレンズが付属するものの2種類がある。



ズームレンズ

カバーする範囲内で、焦点距離を自由に变化させることができる。同じ位置から、写る範囲や被写体の大きさを自在にアレンジできる。単焦点レンズに比べて開放絞り値が大きく、暗い場面や背景をボカしたい時に不利になることがある。



単焦点レンズ

焦点距離が固定されるため、撮影者が積極的に動く必要がある。大きなボケが得られるほか、小型軽量だったり、画質が優れていたりするなどのメリットがある。

- まとめ
- レンズの構成を知って正しく扱う
 - レンズは焦点距離で広角・標準・望遠に分けられる
 - 焦点距離が可変するズームレンズと、固定だが明るさや画質で優れた単焦点レンズに分類できる

01 自然の風景を撮影しよう

Keyword 構図/ズームレンズ/露出補正/シャッタースピード

R50はAPS-Cサイズの大型センサーを搭載しており、感動的な風景をシャープでクリアに表現できる。自然をカッコよく撮るコツは、**構図(フレーミング)**だ。画面の四隅や水平をしっかり確認して、余計なものが写り込んだり、肝心なものが欠けたりしないように注意する。構図の構成は、画角が微調整でき、機動力もあるズームレンズのほうが心強い。また、露出補正やシャッタースピードの選択も重要だ。

6



曇りの柔らかい光を活かす

自然を撮影する時、晴天のほうがよいイメージがあるかもしれないが、必ずしもそうではない。晴天時には影になってつぶれてしまいがちな場所も、曇りであれば光が回り込み豊かなトーンで写すことができる。この写真では森と湖の静けさを表現するために、マイナス補正で暗部を引き締めた。

カメラ設定

撮影モード	絞り優先AE	絞り値	F8	シャッタースピード	1/100秒
露出補正	-2/3	ISO感度	100	ホワイトバランス	オート(曇り優先)
ピクチャースタイル	オート	使用レンズ	RF-S18-150mm F3.5-6.3 IS STM		
焦点距離	39mm(62.4mm相当)				

1 登山こそ小さくてよく写るカメラを

コンパクトなR50は登山のお供にも最適だ。上位機種のような防滴性や堅牢性はないが、よほどハードな行程でなければ問題はないだろう。**常に首やリュックに掛けていられる軽さ**は、撮影のチャンスを増やしてくれる。



カメラ設定

撮影モード プログラムAE 絞り値 F10 シャッタースピード 1/320秒 露出補正 ±0
ISO感度 100 ホワイトバランス オート(曇り優先) ピクチャースタイル 風景
使用レンズ RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM 焦点距離 24mm(38.4mm相当)

2 いざという時に頼れるキットレンズ

野山を歩いていると、不意に野生動物と出会うこともある。そんな時もカメラを首から下げていれば、逃さず撮影できる。**約130gしかないキットレンズ**でも十分に撮影可能で、アウトドアでは積極的に活用すべきレンズといえる。



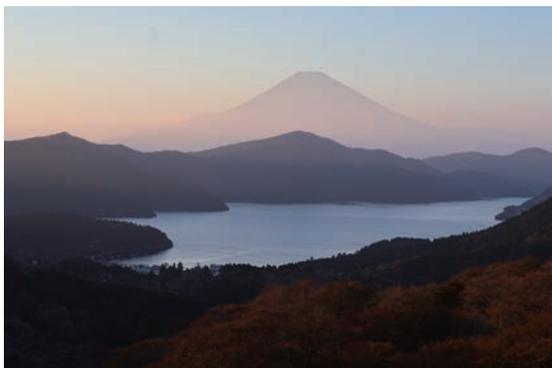
カメラ設定

撮影モード 絞り優先AE
絞り値 F6.7
シャッタースピード 1/60秒
露出補正 ±0 ISO感度 160
ホワイトバランス
オート(曇り優先)
ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S18-45mm
F4.5-6.3 IS STM
焦点距離
39mm(62.4mm相当)

6

3 “写真は引き算”が構図の鉄則

目の前に絶景が広がっているとつい広く写したくなるが、あまり広い範囲を写しすぎると、画面に空気が多くなり、主役も小さくなる。**空や影は窮屈にならないところまでカット**し、主役（この写真では富士山と湖）の迫力や印象をアップさせよう。

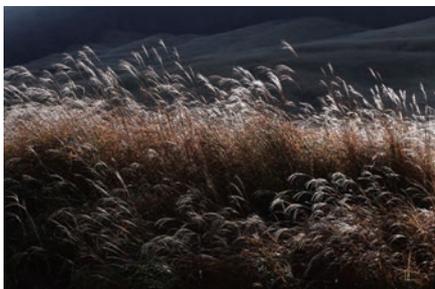


カメラ設定

撮影モード プログラムAE 絞り値 F7.1 シャッタースピード 1/100秒 露出補正 ±0
ISO感度 100 ホワイトバランス オート(雰囲気優先) ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM 焦点距離 45mm(72mm相当)

4 マイナス補正で光を際立たせる

自然風景は露出をカメラ任せにすると、明暗差が均一化されて印象が弱くなりやすい。**マイナス補正をかけて全体を暗くすることで、光を際立たせることができる**。風景撮影においては必須とも言えるテクニックだ。



カメラ設定

撮影モード プログラムAE 絞り値 F10
シャッタースピード 1/200秒
露出補正 -1 ISO感度 100
ホワイトバランス
オート(雰囲気優先)
ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S18-45mm
F4.5-6.3 IS STM
焦点距離 45mm(72mm相当)

5 高速シャッターで波しぶきを止める

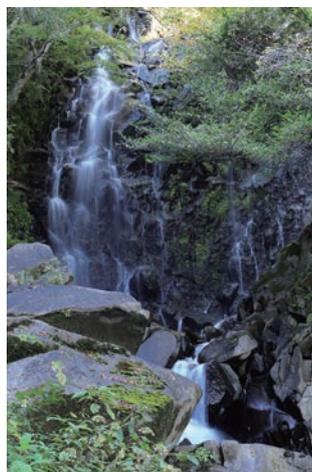
海岸に打ち寄せる波など動きのある光景は、**シャッタースピードの違いでまったく印象が変わってくる**。この写真は夕陽に照らされた荒波が印象的な場面。波しぶきを止めるために、R50の最高速である1/4000秒で撮影した。



カメラ設定

撮影モード シャッター優先AE
絞り値 F5.6
シャッタースピード 1/4000秒
露出補正 ±0
ISO感度 1250
ホワイトバランス
オート(雰囲気優先)
ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S18-150mm
F3.5-6.3 IS STM
焦点距離 35mm(56mm相当)

6 清らかな水の流れは低速シャッターで



滝や清流では、低速シャッターを選択すれば水が流れるように写る。本来はブレないよう三脚が必需品だが、**岩などにカメラを乗せて連写で複数枚撮影**すれば、手ブレのない1枚を残すことができる。また、光量を減らすNDフィルターがあると便利だ。

カメラ設定

撮影モード シャッター優先AE 絞り値 F8
シャッタースピード 1/4秒 露出補正 -1
ISO感度 100
ホワイトバランス オート(雰囲気優先)
ピクチャースタイル オート
使用レンズ RF-S18-45mm F4.5-6.3 IS STM
焦点距離 41mm(65.6mm相当)

まとめ

- 露出補正で光や影をコントロールする
- “引き算”で構図を考えてズームレンズで調整する
- シャッタースピードで被写体の動感を表現する

カメラとスマートフォンを 接続しよう

Keyword Canon Camera Connect/Bluetooth

キヤノンは、メーカー公式アプリ「**Canon Camera Connect**」を無料で提供している。スマートフォンやタブレットなどの端末にインストールし、R50と接続することで、リモートライブビュー撮影をしたり、画像を端末に取り込んだりできる。

1 カメラと端末を接続する

まずはアプリをインストールし、スマートフォンとカメラを接続しよう。接続方法はいくつかあるが、ここではBluetoothを使用し、iOS17.4.1での操作方法を解説する。

iOS ▶ <https://apps.apple.com/jp/app/canon-camera-connect/id944097177>

Android ▶ https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.canon.ic.cameraconnect&pcampaignid=web_share



端末に「Canon Camera Connect」をインストールし¹、アプリを立ち上げ、利用規約に同意する。



画面上部の「+」をタップする²。



カメラ一覧の中から「EOS R50」をタップする³。



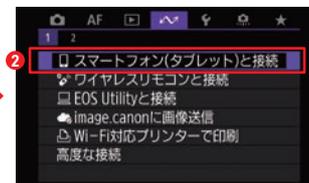
接続方法を選択する画面が表示されるので、「Bluetooth」をタップする⁴。



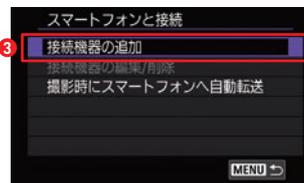
これでスマートフォンの準備は完了だ。カメラの操作に移る。



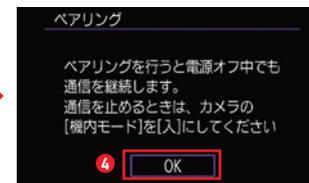
無線通信タブの「Wi-Fi設定」と「Bluetooth設定」を「使う」に設定する¹。



「スマートフォン(タブレット)と接続」を選択する²。



「接続機器の追加」を選択する³。



「OK」を選択する⁴。



「次へ」を選択する⁵。



カメラに表示されたニックネーム⁶と、端末に表示されたカメラ名⁷が同じであることを確認し、端末のカメラ名をタップする⁸。



カメラと端末の両方に確認画面が表示されるので、「次へ」⁹、「ペアリング」¹⁰をそれぞれ選択する。



接続完了画面が表示される¹¹。

まとめ

- 「Canon Camera Connect」をダウンロードする
- Bluetoothを使って端末とカメラを接続する

画像をスマートフォンに転送しよう

Keyword Canon Camera Connect/Wi-Fi

カメラと端末を接続できたら、カメラ内の画像を端末に送信しよう。送信方法は、**端末のアプリを使って受信する方法**と、**カメラから端末へ送信する方法**のふたつがある。画像の送受信には、R50が発信しているWi-Fiを使う。

1 アプリを使って受信する

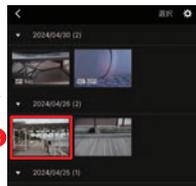
P.150の方法でカメラと端末を接続できていれば、画像転送の操作に移ることができる。最初に、端末を操作して画像を受信する方法を解説する。



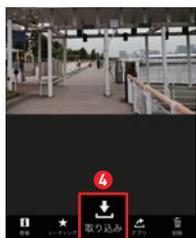
アプリのホーム画面から「画像を取り込む」をタップする**1**。



接続方法がWi-Fiに切り替わる。確認画面が表示されるので、「接続」をタップする**2**。



カメラに保存されている画像が表示されるので、転送したい画像をタップする**3**。



選択した画像が表示されるので、画面下部の「取り込み」をタップする**4**。



画像の転送が開始される**5**。

2 カメラから画像を送信する

次に、カメラから画像を送信する方法を解説する。1枚ごとの送信か、複数枚を送信するかを選択することができる。



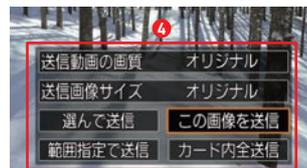
カメラの再生ボタンを押して、送信する画像を表示する**1**。



クイック設定ボタンを押してメニューを表示し、「スマートフォンへ画像を送信」を選択する**2**。



もう一度クイック設定ボタンを押す**3**。



画質、サイズ、送信する画像の枚数や範囲などを選択する**4**。



4で「選んで送信」を選択した場合、十字キーで画像を順次表示し、クイック設定ボタンで送信する画像を選択する。選択した画像は画面左上にチェックマークと枚数が表示される**5**。メニューボタンを押すと確認画面が表示されるので、「OK」を選択する**6**。



4で「範囲指定で送信」を選択した場合、画像が一覧表示される**7**。クイック設定ボタンで、範囲の始点と終点を選択する。メニューボタンを押すと確認画面が表示されるので、「OK」を選択する。

まとめ

- Canon Camera Connectを使用してカメラから端末へ画像を送信する
- 端末を操作する方法とカメラを操作する方法がある

ボタンやリングを カスタマイズしよう

Keyword ボタン/コントロールリング/カスタマイズ

カメラのボタンやレンズのコントロールリングに割り当てられている機能は、**任意の機能にカスタマイズすることができる**。ポートレート、風景、スポーツなど、被写体によって使用する機能が違うことも多いので、自分のスタイルに合わせて変更してみよう。

1 ボタンに機能を割り当てる

ボタンへの機能割り当ては、カスタム設定タブから行う。すべてのボタンで機能割り当ての変更が可能だが、**割り当てられる機能はボタンによって制限されている**。



割り当てる機能を選択する③。

ボタンによって、割り当てられる機能は異なっている④。

2 コントロールリングに機能を割り当てる

ボタンと同様に、**レンズのコントロールリングの機能もカスタマイズできる**。割り当てられる機能は18種類ある。ただし、コントロールリングが内蔵されているレンズに限る。



カスタム設定タブから「コントロールリングカスタマイズ」を選択する①。

機能を割り当てるリングを選択する②。

割り当てる機能を選択する③。

3 カスタマイズを初期化する

ボタンやコントロールリングのカスタマイズは、撮影状況や被写体によって入れ替えたり、初期状態に戻したりすることができる。大きな変更が必要な場合は初期化してしまい、最初からカスタマイズし直すのも有効だ。



カスタム設定タブから「操作カスタマイズ設定の初期化」を選択する①。

「OK」を選択する②。

まとめ

- ボタンやリングに割り当てる機能をカスタマイズできる
- カスタマイズを初期化して設定し直すこともできる

02 マイメニューを設定しよう

Keyword マイメニュー

マイメニューとは、任意の設定項目をメニュー画面の右端にあるタブに登録し、**オリジナルのメニュー画面を作成する機能**のことだ。使用頻度が高い設定を登録し、撮影時にすばやくアクセスすることができる。

1 マイメニューを登録する

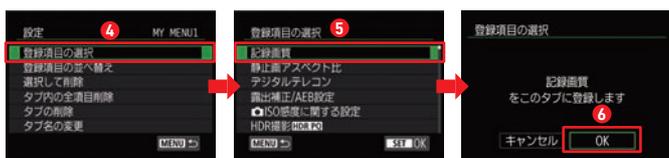
マイメニューの登録は、タブの追加、機能の登録、という手順で行う。**追加できるタブは最大5つ、ひとつのタブに登録できるメニューは6個までだ。**



マイメニュー設定タブから「マイメニュータブの追加」を選択する①。

「OK」を選択する②。

マイメニューが追加されるので、「設定」を選択する③。



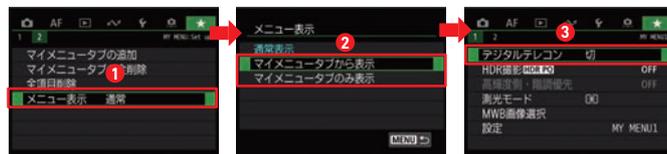
「登録項目の選択」を選択する④。

マイメニューに登録する機能を選択する⑤。

「OK」を選択する⑥。

■メニュー表示を活用する

「メニュー表示」を使うと、MENUボタンを押してメニュー画面を表示した時、マイメニュータブを表示することができる。



マイメニュー設定タブから「メニュー表示」を選択する①。

任意のモードを選択する②。

「マイメニュータブから表示」を選択した場合、メニューボタンを押した時に、マイメニューが表示される③。

2 マイメニューを削除する

不要になったマイメニューは、**削除することができる**。タブ内の項目を削除する方法と、タブごと削除する方法がある。タブごと削除、あるいは全項目を削除する場合は、②の画面で「タブの削除」「タブ内の全項目削除」を選択する。



マイメニュー設定タブから「設定」を選択する①。

「選択して削除」を選択する②。



削除する項目を選択する③。

「OK」を選択する④。

まとめ

- マイメニューに任意の機能を登録できる
- マイメニューに登録した機能は削除できる